

長なしの木

夢と笑顔と「ありがとう」が
あふれる 長幡小学校
令和6年 9月20日
第 11 号

上里の子供たちを育てる合言葉：あいさつ、返事、靴そろえ、集中した清掃（膝つき清掃）

【校長賞】提出された冊数 59冊 1冊以上提出した児童数：30名 9月20日現在

実りの秋

記録的に暑かった昨年の夏をさらに上回る暑さに見舞われた今年の夏。ようやく涼しさを感じるようになってきました。日本には春夏秋冬があり、季節の移り変わりが日本人の豊かな情緒を育んできたように思いますが、近頃は過ごしやすい季節である秋や春が短くなっているような気がしてなりません。作物が実るまでには、種類により長い短いはありますが、時間が必要となります。人間も成長という実を結ぶには、時間を要します。慌てることなく、じっくりと時間をかけて子供たちの成長に寄り添っていければと考えております。10～11月は、行事等も多く、2学期の山場となる時期でもあります。地域・保護者皆様のより一層の御理解・御協力をよろしくお願いいたします。



「6つのふれあい」体験活動

教育活動全体を通して、「6つのふれあい」体験活動に積極的に取り組み、子供たちに豊かな感性や感覚を育てられたらと考えております。“自然とのふれあい”“人とのふれあい”“本とのふれあい”“家族とのふれあい”“地域とのふれあい”“本物とのふれあい”を大切にしながら子供たちの成長を支援してまいります。

大根の種 初めて見た！



9.11 大根の種まき（1年生）

収穫は12月！



9.12 ブロッコリー植え（3年生）

読書の秋！いろいろな本とのふれあいを大切に！！



読み聞かせ読書（2年生）

梨栽培コーナー：いつでも梨の様子を見ることができます！

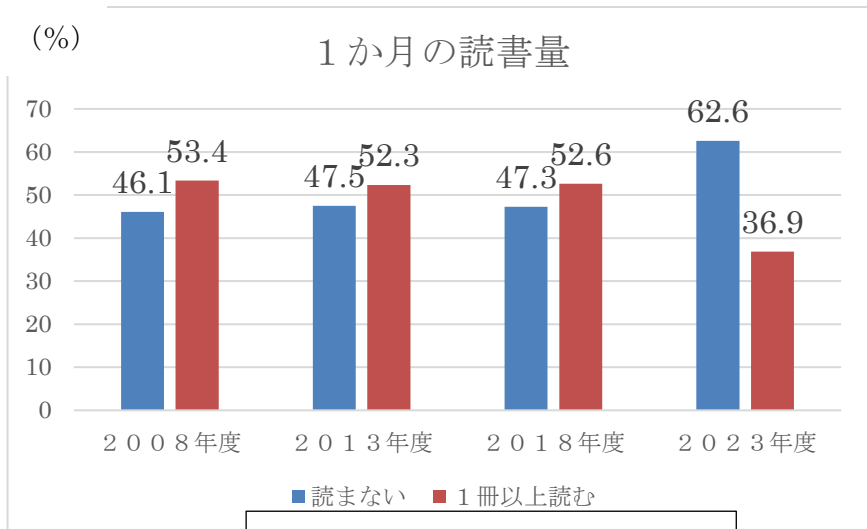


4年生は、梨畑に行
って梨の写真を撮り、
絵で表現しました。
(図画工作の取組)



心配！ 「読書離れ」

文化庁が公表した2023年度の「国語に関する世論調査」から、「読書離れ」が急速に進んでいる状況が明らかになりました。スマートフォン等の情報機器の影響が大きいようです。以下、読売新聞社説より一部抜粋したものを掲載



*****(文化庁の国語に関する世論調査から)

本と読むことは、新しい知識を得るだけでなく、登場人物に感情移入して喜怒哀楽を共にしたり、深く考えて内省したりすることで、人格形成にも大きな影響を及ぼす。一冊との出会いが、その後の人生を左右することもある。

本は読まなくても、SNSの投稿やインターネット記事は毎日読んでいる人が75%に上る。だが、SNSの刺激的な短文は、瞬間的な怒りの感情などに結びつきやすい。デジタルは紙に比べて、記憶に残りにくいとも言われる。

腰を据えて本と向き合い、じっくり考え、冷静に判断する。そうした時間を大事にしたい。学校現場では「長い文章を読む忍耐力が低下している」といった声が聞かれる。しかし、このような傾向は、子供たちや若い世代ばかりではあるまい。

電車や寝室で、つついスマホを触ってしまうという人は多いはずだ。意識的にスマホから離れ、本を読むための時間を作らない限り、読書離れに歯止めをかけるのは難しいのではないかと懸念されている。

「読書の秋」、本校ではこれから「読書月間」を迎えることとなりますが、本にふれる機会や本に親しむ機会を提供し、子供たちが生涯にわたり「本とのふれあい」を大切にしてくれることを願っています。



たくさん動物を見て きました！

9月18日(水)、1・2年生は、生活科見学で埼玉県こども動物自然公園へ行ってきました。真夏のような強い日差しを受けながら出発して行きましたが、午後から天候が急変し、予定を切り上げ早目の学校到着となりました。子供たちは、五感(視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚)をしっかりと働かせて



生活科見学を楽しんでくれたのではないかと思います。